

議 事 録

会 議 の 名 称	第 1 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会																																												
開 催 日 時	平成 2 7 年 8 月 2 2 日 (土) 1 9 時 0 0 分～																																												
開 催 場 所	玉里文化センター コスモス 集会室																																												
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>小松与土宏</td> <td>石塚 匡巳</td> <td>山崎美奈子</td> <td>鬼束 久也</td> </tr> <tr> <td>瀬畑 誠</td> <td>小山田香代</td> <td>上田 義宗</td> <td>西村 恵子</td> </tr> <tr> <td>中村 仁樹</td> <td>戸田 見良</td> <td>千葉 雅子</td> <td>川又 義祐</td> </tr> <tr> <td>山田 宏彦</td> <td>箱田 俊男</td> <td>大山 徳</td> <td>小林 文雄</td> </tr> <tr> <td>羽鳥 文雄</td> <td>林 憲昭</td> <td>笹目 賢一</td> <td>園部 文夫</td> </tr> <tr> <td>田中 周</td> <td>田上 義明</td> <td>水野 貞雄</td> <td>戸田 見成</td> </tr> <tr> <td>大槻 良明</td> <td>今泉 直美</td> <td>戸田 大我</td> <td></td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>大山 明弘</td> <td>宮田 聡</td> <td>村山 憲司</td> <td>鶴町 文男</td> </tr> <tr> <td>関 四郎</td> <td>亀井 優</td> <td>木田 強志</td> <td>山口 淳</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>加瀬 博正</td> <td>長谷川正典</td> <td>皆藤 正造</td> <td>鈴木 定男</td> </tr> <tr> <td>比気 龍司</td> <td>小林 利英</td> <td>田山 伸一</td> <td>田村 直弥</td> </tr> </table>	小松与土宏	石塚 匡巳	山崎美奈子	鬼束 久也	瀬畑 誠	小山田香代	上田 義宗	西村 恵子	中村 仁樹	戸田 見良	千葉 雅子	川又 義祐	山田 宏彦	箱田 俊男	大山 徳	小林 文雄	羽鳥 文雄	林 憲昭	笹目 賢一	園部 文夫	田中 周	田上 義明	水野 貞雄	戸田 見成	大槻 良明	今泉 直美	戸田 大我		大山 明弘	宮田 聡	村山 憲司	鶴町 文男	関 四郎	亀井 優	木田 強志	山口 淳	加瀬 博正	長谷川正典	皆藤 正造	鈴木 定男	比気 龍司	小林 利英	田山 伸一	田村 直弥
小松与土宏	石塚 匡巳	山崎美奈子	鬼束 久也																																										
瀬畑 誠	小山田香代	上田 義宗	西村 恵子																																										
中村 仁樹	戸田 見良	千葉 雅子	川又 義祐																																										
山田 宏彦	箱田 俊男	大山 徳	小林 文雄																																										
羽鳥 文雄	林 憲昭	笹目 賢一	園部 文夫																																										
田中 周	田上 義明	水野 貞雄	戸田 見成																																										
大槻 良明	今泉 直美	戸田 大我																																											
大山 明弘	宮田 聡	村山 憲司	鶴町 文男																																										
関 四郎	亀井 優	木田 強志	山口 淳																																										
加瀬 博正	長谷川正典	皆藤 正造	鈴木 定男																																										
比気 龍司	小林 利英	田山 伸一	田村 直弥																																										
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合の概要について ・ 建設準備委員会について ・ 統合スケジュールの確認 																																												
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)																																												
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																												
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 1人)																																												

【教育長あいさつ】

教育長 この委員会では、小中一貫校の建設について協議いただきたいと思います。ここに至るまでに約5年間、学校教育、学校の統合について、どのようにしたら良いのかを皆さんの意見を聞きながら、進んできた。小美玉市で初めての小中一貫校を建設しようということになっている。小中一貫とは、どういうものなのか。聞き慣れない言葉だと思うが、ここ2、3年の間に小中一貫教育が色々なところで話題になってきている。来年度の4月1日から、文科省が新しい学校を制度化する。今までにあった小学校、中学校に加えて義務教育学校という新しい学校がスタートする。小学校、中学校という形態は、約70年経過している。その制度が出来た時は良かったが、現在は社会情勢が非常に変化している。子供も変化している。特に子供の成熟過程が変化し、70年程で非常に早くなってきている。さらに、中1ギャップ。小学校から中学校に移る際に様々な問題が発生してしまうということがあり、文科省でも小中一貫教育を考えているようです。今年度は、出来れば小中一貫校で取り組んでいる先進校を視察したい。どういった学校なのかを理解いただきながら、話が進んでいけば良いのではないかと考えている。本日は、よろしくお願ひしたい。

【委嘱状交付】

委員を代表して上田義宗委員へ教育長より委嘱状を交付

【建設準備委員会委員の自己紹介】

【事務局職員紹介】

【建設準備委員会委員長及び副委員長選出】

委員より事務局一任との意見。

事務局が委員長に大山徳委員、副委員長に羽鳥文雄委員を推薦。

事務局案を全会一致にて、選出。

議事については、第1回委員会のため、事務局が進行。

【協 議】

(1) 統合の概要について

資料1に基づき、事務局より説明

事務局 まずは、資料1の1ページをご覧ください。

「小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画」は、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化が進む中で、一定の学校規模を確保し、安全でより良い環境を整備していくために策定されたものとなっている。下欄にあるように、この実施計画は、平成22年度から平成26年度にかけて行われた「学校規模配置適正化検討委員会」からの答申や各小学校区で行われた「地域協議会」での協議結果を踏まえ、地区説明会やパブリックコメントを経て、平成27年2月に教育委員会で策定し、市議会に報告をされている。小川小学校、橘小学校の統合は、この実施計画に基づいて、進めていく。

続いて、4ページをご覧ください。

ページ中ほどにある(2)学校再編の基本事項は、(ア)にあるように、対象の学校をいずれも閉校し、それぞれの学校の歴史や伝統を尊重し、これを継承した新しい学校を開校する新設統合校とする。

続いて、8ページをご覧ください。

学校適正配置の具体的方針としては、玉里小学校、玉里北小学校、玉里東小学校を統合し、玉里中学校との小中一貫校とする。学校施設については、小中一体型の校舎を玉里小学校、玉里中学校のいずれかの敷地に新たに建設する。また、体育館とプールは、現行の施設を活用していく。

続いて、10ページをご覧ください。

学校施設の整備計画は、平成27年度から平成32年度までを計画期間とし、平成33年4月の開校を目指していく。小中一体型校舎の概要は、校舎面積が7,700㎡、概算建築費に2,002,000千円を見込んでいる。

(2) 建設準備委員会について

資料2に基づき、事務局より説明

事務局 玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会は、資料2にある設置要綱に基づき、設置されている。委員会は、40人以内の委員で組織する。委員の任期は、統合の日までとなっているが、教職員の人事異動やPTA等の役員交代の際において、所属団体の後任者に委嘱することとする。なお、委員は無報酬となっている。委員には、大変な負担をかけることとなり、申し訳ないが、何卒理解いただきたいと思う。

続いて、2ページをご覧ください。

第7条、第2項において、会議は委員の過半数の出席がなければ開くこと

ができないとなっている。本日の出席委員は、委員の過半数を超えているため、会議の成立をここで宣言する。

続いて、4ページをご覧ください。

上表は、建設準備委員会の組織図となっている。真ん中の建設準備委員会は、平成33年4月の小中一貫教育学校の開校に向けて、協議・検討を行う本部のような役割を担う。そして、専門的かつ詳細な事項を検討する組織として、3つの専門部会がある。後ほど、議事(3)統合スケジュールの中でも説明するが、本年度は学校関係者職員で構成する「学校運営部会」を設置する。この専門部会での協議結果は、建設準備委員会に報告され、建設準備委員会で最終決定を下すこととする。また、建設準備委員会の協議の状況は、毎月開催される市の定例教育委員会に報告する。なお、統合準備委員会の会議は、原則公開とする。会議での協議内容は、事務局で会議録を要点筆記で作成する。作成した会議録は、準備委員会委員長及び副委員長が内容確認を行い、市ホームページで公開する。また、準備委員会の進捗状況は、「準備委員会だより」を作成し、統合学区内の学校、幼稚園、保育所を通じ、保護者に配布する。また、区長回覧や市のホームページを活用し、市内に広く周知していくこととする。

(3) 統合スケジュールの確認

資料3に基づき、事務局より説明

事務局 資料3をご覧ください。

表の左端が建設準備委員会での検討項目となっている。小中一貫校整備と学校跡地利用については、この建設準備委員会全体で協議を行っていく。その下の検討項目からは、各部会での検討項目となっている。なお、学校跡地の利用方法については、建設準備委員会で決定するものではなく、「こういった利用方法があるのではないか」といった意見をいただく場となることを了承いただきたい。

続いて、年度毎の検討内容を説明したい。平成27年度から平成28年度は、小中一貫校整備へ向けての基本構想期間としている。小中一貫校とは、小学校6年間、中学校3年間の義務教育9年間を見通した指導方針の下で行う新しい学校のことをいう。全国で取り組みを行っている自治体は、現在211市町村ある。また、先ほど教育長挨拶にあったように、義務教育学校の制度化に伴い、益々増えてくることと思われる。なお、茨城県内では、水戸市やつくば市等において、小中一体型校舎で小中一貫教育を実施している学校がある。小美玉市では初めての小中一貫校になることか

ら、昨年度に行われた玉里地区の「地域協議会」及び「地域協議会の代表会議」において、開校当初は小学校と中学校を校舎内で分け、時間をかけて問題点を解決しながら、一貫教育を進めたいという意見があった。また、本日出席いただいている委員においても、どのような学校を建てるかといった想像が難しいと思う。なので、意見を出すのが難しいのではないかと考えている。まず、この委員会では、小中一貫教育に係る基本項目の説明や先進校の視察研修を行いながら、学校施設や子供たちの生活の様子、小中一貫教育の取り組みを実際に見ていただきたい。その上で、玉里地区にふさわしい学校のあり方について意見をいただき、検討を進めていきたいと思っている。また、今年度は、学校運営部会を設置し、小学校間及び小中学校間の交流事業について検討を行っていきたいと考えている。平成29年度は、新校舎の基本設計に着手する。平成30年度は、新校舎の実施設計を行う。また、総務・通学部会を設置し、新しい学校名の選考や通学手段としてのスクールバスの運行基準検討を行っていく。平成31年度からは新校舎の建設に着手するほか、PTA部会を設置し、新PTA組織の規約の検討を行う。そして、平成33年4月の開校を迎えるスケジュールになっている。

【質 疑】

事務局 事務局から本委員会に関する主要な箇所について説明させていただいた。第1回目の説明ということ、小美玉市でも最初の取り組みという中で、なかなか理解いただきづらい点、不明な点等あるかと思うので、意見や質問等に答えたい。

委 員 第1回目ということを行っているが、この委員会より前段階の会議があったと思う。その際にどのような話し合いが行われたのか。そういった資料はあるのか。

事務局 まず、玉里小学校、玉里北小学校、玉里東小学校の統合という形で地域協議会が平成25年に設置された。その協議内容については、資料1の中にある資料10をご覧ください。

各小学校区で行われた地域協議会の協議の経過及び結果が記載されている。地域協議会は、市内全小学校区で行われた。また、玉里地区の3つの小学校区の代表委員が集まり、「代表会議」で会議が行われた。この代表者会議の協議結果は、資料10の最後のページにある。当初は、各小学校をどのようにするか、統合するか、しないかというところから協議が始められた。そうした中、各小学校において、学校の統合に了承するという形になった。また、代表会議においては、統合した学校をどのような形で整備していくか、小中一貫校をどのような形にしていくかといった協議がさ

れた。その中で、学校施設を小学校と中学校で分ける併設型、小学校と中学校を同じ校舎に入れる一体型、どちらで小中一貫教育を行っていくかという協議がされている。協議の結果としては、一体型の校舎とするとした。出された意見としては、「当初は一体型の校舎を整備しながらも、校舎内で小学生と中学生を分けた形で開校時は進めていきたい。そして、時間をかけてメリット・デメリット、問題点等を検証していきながら、一体型の一貫校にしていく」ということで、協議会の方向性を決めた。

委員 資料1の8ページにある玉里中学校区の項目、(イ)学校の位置において、「小中一貫校の位置は、玉里小学校または玉里中学校とします」と書いてある。資料1の中にある資料10の地域協議会代表会議においては、「現在の玉里小学校と玉里中学校、その周辺を候補地とし」書いてある。その相違は、どういったことなのか。学校の場所は、既に決定事項ということか。

事務局 資料1の4ページをご覧ください。

(2)学校再編の基本事項(イ)において、「新設する統合校の学校施設については、できるだけ現行の学校施設の有効利用を図ることとします」とある。小学校の体育館及び中学校の体育館を有効活用するという観点から、教育委員会において、学校の位置については、玉里小学校または玉里中学校の位置で決定させていただいている。

委員 これは、元々決まっていたのだろう。

事務局 地域協議会の段階では、地域の意見として、学校周辺という意見をいただいている。

委員 地域協議会の記載と今の時点では相違があり、決定となっている。それは、どこで決まったのかということではないか。

事務局 最終的に決定を行ったのは、市教育委員会。会議の流れとしては、地域協議会代表会議で決定された内容が「小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会」に報告され、その検討委員会で検討した結果が教育委員会へ報告され、最終的に教育委員会で決定をしている。

資料1の中にある資料11、5ページをご覧ください。

ページ上部にある(エ)の項目、小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会の答申の中では、「玉里小学校、玉里北小学校、玉里東小学校を統合する。学校施設については、小中一貫校の導入に地域の理解が得られていることから、玉里小学校及び玉里中学校の敷地を活用」となっている。この答申を基にし、教育委員会で玉里小学校及び玉里中学校の位置に決定させていただいている。

委員 (エ)には、敷地は中学校の敷地を活用するとある。(3)の(イ)では、小中一貫校を新たに建設とある。敷地は使うが、建物は新たに造ることか。

事務局 校舎については、新たに造ることになる。

委員 生徒たちは、仮設校舎等に移動するということなのか。

事務局 それは、建設の計画の中でこれから決定していく。

委員 候補地がこの場所の近くというのであれば、改めて別の場所に建設すれば、移動しなくてすむのではないか。現在の敷地を使うとなると、子供たちが移動しなくてはならない。私も仮設校舎に入った経験があるが、大変だった。

委員 (エ)に「小中一貫校の導入に地域の理解が得られている」と書いてあるが、私は初耳。

事務局 地域協議会の協議経過、結果を「地域協議会だより」という機関紙を作り、回覧等させていただいた経緯がある。

委員 全く知らなかった。小中一貫校は、様々な弊害が出てくると思う。

事務局 開校までに長い期間があるので、その中でしっかりと示していきたい。

委員 今回は資料を事前に読んでいないので、何を質問して良いかも分からないのではないか。

事務局 今回は第1回ということもあり、資料1、2、3と示した。意見にもあったように、本日初めて見るもので、質問や意見をということは無理があったのではないかと思う。今後は、事前に開催通知を出すとともに、配付可能な会議資料を同封し、事前に目を通していただきたい。2回目以降の会議に反映したいと考えているので、そういった方向性を理解していただければと思う。

委員 今回、初めて会議に参加したが、ここまでまとめることは、本当に大変だったと思う。一つだけ心配がある。私も今年限りのPTA会長であり、来年度は、別の人が会長になる。今の準備委員がどれだけ最後まで残るかということが心配。一貫して子供たちが成長していく場所をつくっていくには、この中で意志のある方、最後まで関わって良いという方は残るといったことも含まれると良いのではないかと思う。私も別の建設委員会に携わったことがある。1年毎に委員が異なると、引継ぎが出来ていないため、振り出しに戻るといったことがあった。そういったことも考えると、心配に思った。検討の材料として、提案させていただければと思う。

事務局 長いスケジュールの中ではあるが、その中で検討は続けさせていただければと思う。また、今年度末には、この1年間で実施した内容等を何らかの形にまとめさせていただきたい。それを翌年度に移行する際、新たに代わられる方、一旦そこで終了の方にも示せるようにさせていただきたいと思う。

委員 委員会の今年度のスケジュールといったものはあるのか。

事務局 今年度における会議の回数については、正式には決まっていない。意見をいただくにも、まだイメージが浮かばない中で会議を進めていくわけにはいかないと思う。まずは、小中一貫校がどういったものかという会議と先進地の視察を含め、目安ということで考えていただきたいが、本年度は4

回から5回程度の開催と考えている。

委員 委員が集まってくれているのに、何を行うのかというはっきりとしたことが分からないのではないかと思います。先ほどの質問等を聞いていて、前段階での会議のことを繰り返している。これは、やるという方向でいくのだろうから、しっかりと説明をしないといけないと思う。説明を聞いていると、説得力がない。これだけの人が来ているのだから、もっと研究を行い、無駄な時間を費やさないようにした方が良いのではないかと思います。以前の検討委員会や地域協議会にも出席させていただいたが、係の人が2年、3年毎に代わっていく。そうすると、前のことが分からず、アンケート調査は2回も行った。執行部がしっかりしないと、先に進んでいかない。色々なこと、説明することがあるので、それに対応できるように。大した内容のない今回の資料を事前に配付するくらいの気持ちがないと、検討できない。ここで説明されても、あっという間に説明が過ぎていく。この会議を開催するのであれば、行いやすく、皆に分かりやすく決めていった方が良いのではないか。色々な話が出てきて、壊れてしまう。やるという方向を決めたのであれば、それに皆が向いていけるような話の仕方をして、資料をきちんと用意して行ったほうが良いのではないか。

事務局 意見にもあったように、次回以降は、事前に開催通知に資料を同封等し、対応させていただく、よろしくお願ひしたい。

委員 4、5回開催するのであれば、年間で決める内容等を決めてもらった方が良いかと思う。ある程度やろうとしていることはあると思うので、それに沿って進めていかなければならないかと思う。ある程度の予定も、後で変更になることはあるかと思うが、出してもらった方が良いかと思う。

委員 年間のスケジュールのようなものが次回の資料に入ってくるかと思う。

事務局 それについても対応させていただく。

委員 次回は、いつ開催するのか。

事務局 次回は、10月ごろを目処に会議という事で考えている。

事務局 いただいた意見は十分検討し、次回の会議また年間スケジュールにも反映したいと考えている。

19:55 閉会